

平成28年度第5回宝塚市パブリック・コメント審議会議事録

- 1 開催日 平成29年1月16日(月) 9時30分～11時30分
- 2 開催場所 宝塚市役所3階 特別会議室
- 3 出席者 委員8名、事務局3名
- 4 議事
(1) 平成28年度宝塚市諮問第22号「平成27年度パブリック・コメント手続の実施及び運用状況の評価について(答申)(案)」について

○事務局 <開会>

出席者委員の報告。8名中8名の出席で、審議会は成立。傍聴希望者はなし。

○会長 新年挨拶。それでは議事に入る。前回までの審議会でもいただいたご意見を元に、平成27年度のパブリック・コメント手続の実施及び運用状況の評価の答申案を取りまとめた。本日は、この答申案に追加・修正する個所があるかどうか、ご意見をいただいた上で、最終の答申案を取りまとめ、後日市長に答申してまいりたい。すでに各委員におかれてはご確認いただいたかと思うが、事務局から簡単に説明願う。

○事務局 1番目に、昨年パブリック・コメントを行った案件16件全般について、2番目は、パブリック・コメントを行わなかった案件について、3番目は、パブリック・コメントの運用状況の評価を、1番2番の記載内容を踏まえ、パブリック・コメントが適切に運用されたかどうかの結論を記載、4番目として、当審議会の運営・早期開催について記載している。別紙にパブリック・コメントを行った案件の個別評価を、最後に、審議会の委員名簿と審議日程を記載している。

○会長 これについて各委員から追加修正等ご意見をいただきたい。

○委員 1番のところ、全体のトーンが100点満点で悪い所がないという書き方である。昨年よりは良くなったことは実感しているが、この文章だと「何も悪い所はない、100点満点だ」と捉えられてしまう。個別評価を見るとA評価は4つ、大部分がB評価である。100点満点ではないということを表す文章でなければならない。具体的には、中ほどの所で「結果公表については・・・丁寧に市の意見が示され・・・」とあるが、この文章で見ると全てが市民の意見に対して丁寧に示されていると捉えられるが、回答が不十分な所も

たくさんあった。ここは「・・・丁寧に市の意見が示されているものが多い」という表記にするべき。

その次の「実施機関のパブリック・コメントに対応する・・・認めることができる。」という文章はいらなと思う。次の所に「より良いパブリック・コメントをしようとする姿勢が認められる」と書いてあるので同じ内容を書く必要はない。また、「実施機関においては・・・確実に実行し・・・」とあるが、これも100%行ったという意味合いになるので必要ない。この中で個別に書くなら「市民の意見を取り入れた場合、理由を明らかにしていない点がある」事と、「文章が冗長すぎてポイントが明確になっていない」この二つの点が、全体の中の欠点だと思う。それを文章に入れるべきではないか。「より良いパブリック・コメントにしようとする姿勢が認められる」の後に「ただし・・・」として、この二つの欠点を入れてほしい。より良いパブリック・コメントにするには、悪い所を明らかにしないとイケない。

○会長

「できない理由を明らかにする」「冗長であることを指摘する」これを加えるということが良いか。

○委員

(全員同意)

○委員

「より良い」という言葉が多く出てくる。「的確に」と表現されるべきではないかと思う。

○委員

全体的にまとまっていると思うが、意見がとても少ないものがあつたので、その点について言及しても良いかと思う。

○会長

意見が少ないことに対しても加筆する。

○委員

(全員同意)

○委員

全体として、ここに書かれていることに対してはあまり意見はない。評価の仕方について、もう少し効果的なやり方がないかと思う。パブリック・コメントが実施され、その後時間をおいて審議会が開催され、色々と意見が述べられているが、うまくフィードバックして、次に実施機関が改善点を分かったうえで実施しているか。それがないと進歩がない。提案になるが、チェックリスト・マニュアルを作り、実施機関が先にそれを読んでパブリック・コメントの資料を作成し、市民から意見をいただく。審議会ではマニュアルとチェックリストに基づいて審議すれば良いのではないか。そういう形にしないと、それぞれの案件に対して都度言っていかなければならない状況が発生している。チェックしたものを更にチェックすることで品質が向上するのではないかと思う。

- 会長 3番についての指摘事項ということですね。
今年度、手続に関するチェックリストの作成は行ったが、これが各部局に浸透し、事前に咀嚼したうえでパブリック・コメントを行う。
- 委員 そうです。先にどれだけの知識を持って、パブリック・コメントを行うかということ。それで大部分がクリアできるという形にすれば、より効果的ではないかと思う。
- 会長 下から3行目の所を補強するかですね。チェックリストを作ったことにより、事前に浸透させ、実施機関は事前にチェックリストを咀嚼していただいて、その上で実施してくださいということ。
- 委員 ただ、チェックリストだけで行うと細かいところが多すぎる。マニュアルとしてのガイドラインの中にチェックリストがあると有効かと思う。
- 委員 先ほど言われたことと重複するかもしれないが、1番目の2行目の「用語の解説・・・工夫が必要な所も見受けられたが」ということで、後ろの方はいい評価が続いている。ところが個々の評価は必ずしもそうではない。用語の解説については枝葉末節の方の問題で、我々が審議することについては重要であるが、B評価されたコメントの所で「もっと他の文章で」こうした方がいいのではないかという方が大事だと思う。それをもっと重要視した方が良い。B評価でマイナス評価もあったが、昨年と比較して高く評価できるというのは事実。そうしてみると、結局「良かった」と自画自賛しているように感じた。「まだまだですよ」というのをもう少し強調してほしい。後については文章を上手に書かれていると思う。
- 委員 2番については、最初の2番目「実施されなかった案件があるかについて検討を加えた」とあるが「実施されなかった案件・・・報告を受けた」である。また、2ページ目にかかるところの「実施されていなかったことが判明した」は「実施されていなかったとの報告を受けた」ということではないか。同じ趣旨で、下から5行目「適用除外とすることはやむを得ないと判断する」とあるが、「やむを得なかったという報告について了承した」とすべきではないか。
- 委員 3番については、「適切に運用されていた」と記載されているがすべてが適切に運用されていたと捉えられるので「概ね適切に・・・」という大体という主旨を入れるべきではないか。
5行目からの「今後ともパブリック・コメント・・・推進していただきたい」はあいさつ文のような感じで、内容も特に意味がな

く、ここで言うべきことでもない。文章を簡潔にするためにも削除すべきである。直接主張すべきことのみを書くべきである。

4番について、「一挙に評価することは・・・欠点も存在する」という記載がなぜここにあるのか。これは関係の無いことなので削除すべき。「今後は早く評価する体制を整え実施していきたい」と書けばいいことである。9月に行ってきた理由付けを、あえて正当化する文章が書かれているのは疑問に感じた。

○委員

確かに9月にやる理由も無かったが、今までこうやって来たのは何らかの理由があったとのだろうと推測する。4月から3月まで実施したものを9月から評価する。これが遅いという意見もあるので、できるだけ早くということでこの文書を加えた。理由をあえて言うと、3月に実施のものもあるので、ポツポツと行うと評価がばらけることもある。9月に全部出てきた段階で評価するのは、我々もしんどいが、4月から翌年3月までのものをやるとすると9月かなと。そうでないなら、別途の形で良い方策があれば仰るとおり5月くらいに始めても良いかなという気もする。できるだけ早い体制を。

○委員

私も「今後はできるだけ早くに」という文章を書いていたから良いと思う。

○委員

「一挙にやっている」という表現なので「一挙にやって委員に負担をかけることが無いように、今後は・・・」ということではないか。

○委員

確かに集中的にやる方が、評価のブレが生じないことは事実。集中的にやるとなると9月が限界かなと思う。行政側の意見も聞きたいのだが、3月までで終わった前年度分を審議会に持って来るにあたって、件数をブロック別に分けて、もう少し前倒しに出来るか。

○事務局

5月は事務手続き的に難しい。3月にパブリック・コメントを行ったものを、その後各部局の手続が1ヶ月くらいあるので、それを見ると5月スタートは難しいが、9月から1、2ヶ月は早めることは可能かと思う。

○委員

その辺だと思う。今まで9月にやっていたので、何らかの理由はあるだろうと想着ているが、できるだけ早くしたいというのはある。やはり事務局が主体になっていただきたい。我々、審議会の委員だけではどうにもならない。そうすると市長に対するものとしては、答申に付け加えていただきたいと思う。

○事務局

9月というのは事務局の事務の負担も考えて、余裕を見てやっ

ていた訳ではないが、丁寧にやっていたこともあるので、その点をもう少し短くすることは可能かと思う。

○会長

一回あたりの件数が固まらないように流して行ってくれたら、委員も仰っていたが我々のルーチンワーク化してくれたら、もの見方も統一化されるかと思う。最初は件数がそれほど多くなかったが年々増えており、中身も濃くなってきている。それによって資料も増えてきている。

○委員

ちょっと負担が多いかなという感じがする。負担を減らすにはどうすればいいか。文章を読んでいて重複表現が多いと思うので、少し気を付けると減るのではないかと思う。データのものは後ろで資料として付け、肝心の文章はもっと簡潔に表現する方が分かり易いかと思う。

○会長

それは出てきている案件全般に言える。

○委員

行政の方が形式にこだわって、きちっと言われたいというものをすごく感じる。そうではなく、市民の方に発信するにあたって、分かり易いという面で少し考えてもらうと、もっと簡潔に出来るのではないかと思う。そうすると、評価する側は薄いものを見るわけだから、負担はだいぶ軽減されると思う。

○会長

各部局によってかなり違いがある。

○委員

おそらく担当者は一生懸命しっかりしたものを作られるので、増えてしまうのだと思う。少し頭を切り替えていただくと簡単に出来る。

○会長

それでは大体、皆様方のご意見をいただきましたので、大筋の方向を確認したいと思う。

まず1番は、一度書き直さないといけないと思うが、大きく言うとB評価のグループが多いが、そのB評価のグループと同じ視点で指摘していることを2,3個は指摘すべきではないかと思う。例えば「注釈のつけ方や文章の簡潔さを目指すという意味が見受けられない」という文章を入れるとどうか。分かりにくい文章が結構多かったということで、その二つは具体的に書いて、尚、努力も必要であるということと言わないといけない。「昨年度と比較しても・・・評価できる」ということは言って良いと思う。委員が仰ったように「昨年度と比較しても高く評価できるものの、尚このような改善点が指摘できる」等とされた方が良いかと思う。「それぞれの実施機関で克服改善され、市民に分かり易いものとなっており」と決めつけるのは言い過ぎかと思う。「市民に分かり易いものとす

る努力がなされていることは認められる」等。「実施機関のパブリック・コメントに対応する技量・意識が高まっていることを認めることができる」は重ね言葉として確定的に言うのは、ためらいがあるのでカットする。その前の「丁寧に市の考えが示されているものが多くなってきた」という言い方の方が良い。下段の「パブリック・コメント手続の改善策を確実に実行し・・・」というのは、ちょっと言い過ぎなので、「より良いパブリック・コメントにしよとする姿勢が概ね認められる」とする。今言った、高く評価する「ものの」等の後ろに並べる指摘事項だが、「できない理由を明らかにしていない他、文章が冗長であるということ」等もここで指摘してはどうか。それを入れれば、今後もより良いパブリック・コメントにつながると思う。

○委員 下から4行目のより良いパブリック・コメントにしようとする姿勢・・・」というの、実施機関だけでなく、事務局もそのように働きかけて続けて来られたので、そのあたりの事は書いても良いのではないか。

○会長 良いかと思う。

○委員 全体に以前と比べて市政意識が高まっているというのは私たちも同じ。

○会長 なので「高まっていることを評価することは出来る」と。「しかしながら」や「であるものの」という所で、問題点を2,3並べる。特にできない場合の理由が明確に答えられていないとか、文章が冗長すぎるとか、注釈の付け方に親切さが欠けるとか。B評価で言われている点を言えば良いかと思う。

2番は、「実施されなかった案件があるかについて」検討は加えていないので、「・・・について報告を受けた」これについてはその通りかと思う。次のページの下の方「・・・やむを得なかったものと判断する」を「・・・報告を了承した」とする。

3番は、最初の「・・・手続は、適切に運用されていた」とあるが、決めつけられないので「概ね適切に・・・」とする。

5行目から8行目までは削除する。

○委員 ここの4行の文章は、昨年と全く同じ。去年は、最後のあいさつ的な感じが入っていたので、それほど強くなかったが全く同じ文章を真ん中に持ってくると違和感を感じる。

○会長 昨年入ったのはパブリック・コメントを情報公開制度と勘違いしていないかということで「情報公開ではなく、情報の共有と参画、

協働のまちづくりのためのツールであることをもっと徹底せよ」という話があり、それで入った。認識が少し間違っているのではないか、パブリック・コメントをやりさえすればそれでいいというのはおかしい、もっと意見を求めてその意見を一緒に考えた結果、「こう変えました」とか「いい意見をもらいました、参考になりました」などと、市民を共同経営者のように関わりを深めてもらいたい制度である。それを言いたかった。パブリック・コメント運用状況の中にこれが入ると飾り文句のように見えてしまい軽いので、一旦外す。

○委員

情報公開と言ったら国民が自分から求めていく訳だが、これは実施機関が市民に知らせるだけではないということなので、この文章が生きてきたのだと思う。それでは、1番の前に持ってきてはどうかと思う。

○会長

こういうことかと思う。「パブリック・コメント制度は市民と行政との情報共有の手段であり、市民との協働による行政運営の手段であることを認識し、開かれた市政運営と協働のまちづくりを推進するための制度である。当審議会はパブリック・コメント手続全般の評価を行っている。」ということを前書きに置けばと思う。この事は、何回も行政内部に浸透させてくださいとお願いしてきたことである。やっている実施機関は「情報公開だ、アリバイだ」と捉えがちだが、そうではない。むしろ市民から意見をもらえることはすごく良い事だと言いたい。

4番目は、当審議会の運営についてだが、先ほど議論もあったが「一挙に評価をすることは、評価のバラツキを生じさせないものの集中的であるため審議会各委員の負担も過重となる。丁寧に調査・評価し得ない欠点も存在し得る。今後は出来るだけ早い時期から、適宜評価する体制を整えるよう実施していきたい。」適宜というのは、年間で固めるのではなく、いくつか分割しても良いのではないかということである。

3番に戻るが、「改善及び手続に係るチェックリストの作成を行ったところであり、今後はこれを更にマニュアル化し、活用してパブリック・コメント実施機関が事前に確認して、市民に分かり易いものとなるように実施に努めていただきたい」とすれば、チェックリスト・マニュアルの大事さが言えるかなと思う。

○委員

指摘項目で「市民からの意見が少ない事」を付け加えておく事。とは言っても C が無くなったことはうれしいことである。随分、進化発展したことは評価されるかと思う。

- 会長 今いただいたご意見を加えて、事務局・寺田先生・私の方で、もう一度原案を練り直してみたいと思うがよろしいか。
- 委員 (全員同意)
- 会長 それでは、本日いただいたご意見を踏まえて答申案を修正する。その後各委員に郵送させていただくので、ご確認いただいて異議が無ければそのまま市長に提出する。もし意義があれば、また事務局と寺田先生、私とで協議して、加筆修正すべきかどうか、したならしたでもう一度フィードバックする。
- 市長に答申書を渡す日時は、事前に各委員にお諮りした日程で、2月27日の午前9時30分になった。単なるセレモニーに終わらせたくないの、各委員の皆様は市長と懇談される際に、何かお伝えになりたいことがあれば、用意された方が良いかと思う。ただの雑談ではないので、特にこの審議会委員になられてお感じになった事や制度に関する事等。
- それでは、事務局の方から何かあれば。
- 事務局 答申提出日、当日の集合時間、場所については後日ご連絡させていただきます。
- 会長 それでは、以上で審議会を閉会する。